



「JUS(ジュス)」一年目を迎えて

成城学園校歌に由来する「とりのこえ」に託して、全学共通教育に関する情報をお届けする試みも、二年目に入りました。今年度のセンター所管の科目には、昨年度と異なる点が二つあります。第一は、社会イノベーション学部の新入生も履修に加わるようになったこと、第二は、キャリアデザイン科目の刷新です。

そのキャリアデザイン科目でキャリア形成概念を担当されるのは、今年度から新たにセンターの専任教員として加わっていただくことになった勝又あずさ先生です。さっそく本号にも登場していただきますが、ソニー

の広報部門・人事部門という企業の第一線で活躍していたご経験を学生たちの指導に活かしていただいています。もうお一人、経済学部の海老島均先生にもセンター専任教員の陣容に加わっていただくことになりました。新聞学科のご出身で、英

年度もその作業に着手しました。学生が精神的にも、知的にも、そして身体的にも元気が出るような授業を提供していきたい(もちろん、学生はたんなる消費者ではなく、かれらが積極的に関わってこそそうした授業が成立するのですが)と思っています。みなさまのご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。(センター長・文芸学部・林田伸一)

二〇一一年度 共通教育研究センター 主な事業について

共通教育研究センターが 発足して今年度で五年目となり、本センターの事業も徐々に確立してきました。今年度も、昨年度に引き続き、以下のような事業を計画しております。

① WRD プレゼンテーションコンテスト開催

全学共通教育科目の基盤となる科目であるWRD科目における授業の成果を発表する場として、プレゼンテーションコンテストを開催します。WRD科目の授業において利用できるよう、コンテストの場を提供するものです。現在、開

録等を残すために、本コンテストの実施状況を掲載した報告書を作成しておりますが、今年度も作成する予定です。

なお、コンテストの詳細な内容については、WRD科目担当者に別途配布する予定の案内をご覧ください。

② 紀要『共通教育論集』の発行

『共通教育論集』第四号を発行する予定です。発行予定は、二〇一二年三月です。第四号でも、通常通り原稿を募集いたしますが、FDワークショップの紙上再録等も掲載する予定です。

③ FD公開ワークショップの企画、開催

本センター独自のFDへの取り組みとして、FD公開ワークショップを開催します。昨年度は、一橋大学国際教育センター・大学院言語社会学研究科の石黒圭

ご意見・ご感想・寄稿募集

『とりのこえ』では、みなさまからのご意見やご感想、共通教育(教養教育、初年次教育など)にまつわる話題や原稿などを募集しております。詳細は、本センター(4頁参照)までお願いいたします。

准教授をお迎えし、講演と討論を行いました(詳細は、ニューズレター二〇一〇年度第三号)。今年度も、同様のワークショップを企画する予定です。

④ 『成城フィードバック』報告書発行

本紙二頁でも紹介している『成城フィードバック』の報告書を、『成城学』の成果として二〇一二年三月に発行する予定です。(経済学部・阿部勘一)

『成城フィールド・スタディー』 『WRDプレゼンテーションコンテスト』 報告書発行

二〇一一年三月末に、

本センターの事業における成果として、『成城フィールド・スタディー報告書』と『WRDプレゼンテーションコンテスト報告書』の二冊を発行しました。

『成城フィールド・スタディー報告書』は、全学共通教育科目の成城学ⅣとⅤとして開講されている「成城フィールド・

スタディー」の授業で行

われた成果をまとめたものです。全学共通教育科目の科目群の一つである成城学とは、成城大学独自の特色を持つ科目群として構成されており、成城大学、成城学園の教育

ています。

成城フィールド・スタディーは、受講生が成城学園のOBやOGの方

当しています。

科目開設以来、毎年報告書を発行し、今回二〇一〇年度の報告書で五冊目となります。二〇一〇年度は、受講者が二つの班に分かれて、最終的な報告書の作成を行いました。学生たちは、成城の街を歩いたり、同窓会事務所に相談するなどして、自分たちでインタヴューする方

た。

『WRDプレゼンテーションコンテスト報告書』は、WRDプレゼンテーションコンテストの実施状況についてまとめたものです。プログラムと結果、当日審査を担当された先生方と、コンテストに参加したクラスの担当教員によるコメント・雑感と、各チームのプレゼンテーションで使用したスライド(パワーポイントを使用)を掲載しています。

本センターで閲覧など可能ですので、ご興味のある方は、本センターまでお問い合わせください。

また、プレゼンテーションコンテストに関しましては、当日の内容を収録したDVDもあります。閲覧などについては、報告書同様、本センターまでお問い合わせ下さい。(経済学部・阿部勘一)

全学共通教育科目「成城学」 成城フィールド・スタディー報告書 — 2010年度— 目次

はしがき
序

第1章 成城に住む人々のつながり

第2章 桜並木ができるまで

おわりに 社会調査実習に求められる
指導の二面性

あとがき

全学共通教育科目「WRD」 プレゼンテーションコンテスト報告書 — 2010年度— 目次

はしがき

1 WRD プレゼンテーションコンテスト
概要

(※ 2009年度実施の第1回WRDプレゼンテーション
コンテスト概要を含む)

2 WRD プレゼンテーションコンテスト
審査員・担当教員 コメント集

3 WRD プレゼンテーションコンテスト
プレゼンテーション内容

探し、収録した録音を文字に起こし、インタヴュー内容を分析、考察した結果をレポートにまとめました。今回は、成城の街に住んでいる方と、本学の卒業生のお二人にインタヴューし、成城の町並みや景観の変化、在学中の活動などから、「成城」について考察した内容となりました。

各報告書については、

本センターで閲覧など可能ですので、ご興味のある方は、本センターまでお問い合わせください。



成城の就業力。

『成城大学就業力育成・認定プログラム』始動

「成城大学就業力育成・認定プログラム」が二〇一一年度より本格的にスタートしました。



本プログラムは、文部科学省が二〇一〇年度に募集した「大学生の就業力育成支援事業」に申請し採択を受けたことによつて、今年度より開始したものです。プログラムは、キャリア形成概念の理解と、グループワークやグループディスカッションを通じた体験型の科目からなる「就業力基

礎科目」、勤労観や職業観の醸成を目的とした「就業力発展科目」、そして、時事英語、時事問題、経済や会計、法律などに



関する知識を学ぶ「就業力強化科目」から構成されています。これらの科目は、全学共通教育科目のキャリアデザイン科目群として位置づけられています。

四月には一年生全員を対象にガイダンスを行い、その後、定員を超えての申し込みから一六〇名のメンバーが抽選で選ばれました。軌道に乗った今、メンバーは大変熱心にこのプログラムに取り

オープンキャンパス 説明会にて (6月19日(日))

組んでいます。本年度前期に開講した科目は、「キャリア形成概論Ⅰ」(勝又)、「キャリア形成概論Ⅱ」(森隆史先生)、「時事英語」(富田裕子先生)です。今年度後期には、「スタート・プログラムⅠ(街づくり)」「スタート・プログラムⅡ(企業提案)」「スタート・プログラムⅢ(起業)」が開

講されます。これらの授業や行事を通して「成城の就業力」の本質を、メンバーが自ら見出し、意味づけていきます。「キャリア形成概論Ⅰ」の授業では、一六〇名が一斉にペ

アワークやグループワークを行います。毎回、知り合いでない人の隣に自ら座り、多様な考え方や価値観を聴き、自分の枠を拡げていきます。時には、代表者がマイクを持ち、グループとしての意見を自分の言葉で表現し、教室には一体感が生まれます。授業を超えて、このメンバーみんなでス

ポーツ大会をやるとういった提案もあるほどです。見学された他大学の講師は「学生のワークに取組むスピード」に感動され、取材に訪れた雑誌記者は、学生の「漠然としたテーマから話を発展させる力」を高く評価しました。本プログラムの運営にあたり、このメンバーから「就業力サポーター」を公募し、二一名

が集まりました。去る六月一九日(日)のオープンキャンパスでは、「成城の就業力。説明会」をこのサポーターが企画進行してくれました。配付資料の作成、会場案内、在学生代表スピーチ、会の撮影・編集、そして受験生からの相談にも直接対応してくれました。この説明会には計一〇〇名を超える受験生と保護者が訪れ、アンケートの回答には、「学生がリアルを重ねながら本番に臨む、その意欲が伝わってきた」、「教職員と学生の一体感に感銘を受けた」といった有難いお言葉をいただきました。

多くの学生が授業の空き時間を利用して就業力育成支援室に集まってきます。本プログラムがスタートしてわずか二ヶ月。チームワークを発揮しながら目に見える成果を次々と残してくれてい



ます。キャリア形成には、優劣も正解も必勝法もない。自分の道を自分で切り開いていく、その力を互いに育む場を、学生自身が形成しています。(共通教育研究センター・勝又あずさ)

体育実技科目で「体力テスト」実施

体育実技科目では、毎年前期に全ての種目の授業で体力テストを実施しています。本年度も開講後三週目に当たる五月一六日～二〇日に行われました。

体力テストは、文部科学省(当時は文部省)が一九六四年から「スポーツテスト」の名称で実施されてきたもので、「体力診断テスト」と「運動

能力診断テスト」から構成されています。本学の体育科では、一九六四年

度から、スポーツテストのうち「体力診断テスト」の部分を、一、二年生を対象に(当時は体育実技科目は必修)一コマ分を使って実施してきました。その後、一九九三年度の新生から、体育実技科目が選択科目となるのに伴い、「体力診断

テスト」の対象者は、一～四年の履修希望者へと変化しました。

さらに、文部科学省は、一九九九年の体力・運動能力調査から「スポーツテスト」を改訂して「新体力テスト」を導入し、本学でも、二〇〇〇年度から「新体力テスト」を導入して、体育実技の履修学生の体力測定を行ってきました。

現在本学で実施している体力テストは、文部科学省の「新体力テスト」

に準拠し、①握力(筋力)②上体起こし(筋力・筋持久力)③長座体前屈(柔軟性)④反復横とび(敏捷性)⑤二〇mシャトルラン(持久力)⑥垂直とび(瞬発力、跳躍力)の六種目(カッコ内は測定する体力の種類)を行っています。「新体力テスト」では、瞬発力を測定する手段として立ち幅と



びを採用していますが、本学では、過去のデータとの比較を可能にするために垂直とびを(継続して)採用しています。

体力テストは、学生が自分の体力の現状を知る機会を与えたり、学生が体育実技の授業を受けるときの目安や目標設定に役立てるのはもちろん、

学生のデータを統計的に処理し、体育科における研究活動にも活用されています。その一端は、『成城大学共通教育論集』第一号に、論文として掲載されています。

(経済学部・阿部勘一)

共通教育研究センター センター員

(2011年度：学部別・50音順、氏名の後は所属部会)

センター長 文芸学部 教授 林田 伸一

経済学部

教授	相原 章	教職
准教授	阿部 勘一	教養 (教養・WRD・IT)
教授	海老島 均	体育
教授	木下 直也	教養 (WRD)
教授	小平 裕	教養 (キャリア)
教授	田中 誠一	体育
教授	塘 誠	教養 (IT)
准教授	中村 理香	教養 (教養)
教授	牧野 陽子	教養 (外国語)

文芸学部

准教授	岩田 一正	教職
教授	小澤 正人	教養 (IT)
教授	川上 善郎	教養 (キャリア)
教授	小島 孝夫	教養 (WRD)
教授	杉本 豊久	教養 (外国語)・教職
教授	妹尾 江里子	体育
准教授	東谷 護	教養 (教養・WRD)
教授	村瀬 鋼	教養 (教養)

法学部

教授	大津 浩	教養 (IT・キャリア)
専任講師	佃 陽子	教養 (教養・WRD・外国語)
教授	平野 篤司	教職

社会イノベーション学部

准教授	石井 康毅	教養 (IT)
教授	斎藤 忠志	教養 (外国語)
教授	櫻井 一彦	教養 (教養・WRD)
教授	杉山 武彦	教養 (キャリア)
教授	田中 陽子	体育
教授	平井 康大	教職

共通教育研究センター

特任准教授	勝又 あずさ	教養 (キャリア)
特任教授	齋藤 武捷	教職



『とりのこえ』

成城大学 共通教育研究センター
ニュースレター 2011年度 第1号
(2011年7月7日発行)

発行責任者：林田 伸一
編集担当：阿部 勘一

成城大学 共通教育研究センター
〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20
Tel: 03-3482-9556 Fax: 03-3482-9053
e-mail: kyotsu@seijo.ac.jp